

1 月図書館企画

第168回 芥川賞・直木賞 決定！

第168回芥川賞・直木賞（日本文学振興会主催）の選考会が、19日、東京築地の料亭「新喜楽」で開かれ、芥川賞は井戸川射子（いこ）さん（35）の「この世の喜びよ」（群像7月号）と佐藤厚志さん（40）の「荒地の家族」（新潮12月号）に、直木賞は小川哲（さとし）さん（36）の「地図と拳（こぶし）」（集英社）と千早茜さん（43）の「しろがねの葉」（新潮社）に決まった。



千早茜・小川哲・佐藤厚志・井戸川射子

芥川賞の井戸川さんは昭和62年、兵庫県生まれ。高校教師の傍ら創作を始め、詩集「する、されるユートピア」で中原中也賞受賞。小説「ここはとても速い川」で野間文芸新人賞を受賞。芥川賞候補は初めて。

佐藤さんは昭和57年、仙台市生まれ。丸善仙台アエル店勤務。「蛇沼」で新潮新人賞を受賞しデビュー。芥川賞候補は初めて。

直木賞の小川さんは昭和61年、千葉県生まれ。「ユートロニカのこちら側」でハヤカワSFコンテスト大賞を受賞しデビュー。「ゲームの王国」で山本周五郎賞などを受賞。直木賞候補は2回目。

千早さんは昭和54年、北海道生まれ。小説すばる新人賞受賞の「魚神（いおがみ）」でデビュー。「透明な夜の香り」で渡辺淳一文学賞受賞。直木賞は3回目。

第168回芥川賞・直木賞 受賞作品の紹介！



第168回芥川賞受賞 『この世の喜びよ』 井戸川射子著
 思い出すことは、世界に出会い直すこと。幼い娘たちとよく一緒に過ごしたショッピングセンター。喪服売り場で働く「あなた」は、フードコートの常連の少女と知り合う。言葉にならない感情を呼び覚ましていく表題作「この世の喜びよ」をはじめ、ハウスメーカーの建売住宅にひとり体験宿泊する主婦を描く「マイホーム」、父子連れのキャンプに叔父と参加した少年が主人公の「キャンプ」を収録。



第168回芥川賞受賞 『荒地の家族』 佐藤厚志著

あの災厄から十年余り、男はその地を彷徨いつづけた。元の生活に戻りたいと人が言う時の「元」とはいつの時点か。40歳の植木職人・坂井祐治は、あの災厄の二年後に妻を病気で喪い、仕事道具もさらわれ苦しい日々を過ごす。地元の友人も、くすぶった境遇には変わらない。誰もが何かを失い、元の生活には決して戻らない。仙台在住の書店員作家が描く、止むことのない渴きと痛み。



第168回直木賞受賞 『地図と拳』 小川哲著

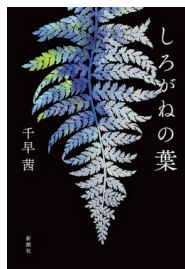
「君は満洲という白紙の地図に、夢を書きこむ」

日本からの密偵に帯同し、通訳として満洲に渡った細川。ロシアの鉄道網拡大のために派遣された神父クラスニコフ。叔父にだまされ不毛の土地へと移住した孫悟空。地図に描かれた存在しない島を探し、海を渡った須野。奉天の東にある〈李家鎮〉へと呼び寄せられた男たち。日本SF界の新星が放つ、歴史×空想小説。



第168回直木賞受賞作 『しろがねの葉』 千早茜著

戦国末期、シルバーラッシュに沸く石見銀山。天才山師・喜兵衛に拾われた少女ウメは、銀山の知識と未知の鉱脈のありかを授けられ、女だてらに坑道で働き出す。しかし徳川の支配強化により喜兵衛は生気を失い、ウメは欲望と死の影渦巻く世界にひとり投げ出されて。生きることの官能を描き切った新境地にして渾身の大河長篇！



新年にオススメの最新刊図書！



『爆弾』 呉勝浩著

東京、炎上。正義は、守れるのか。警察は爆発を止めることができるのか。爆弾魔の悪意に戦慄する、ノンストップ・ミステリー。

『方舟』 夕木春央著

9人のうち、死んでもいいのは、死ぬべきなのは誰か？ タイムリミットまでおよそ1週間。それまでに、僕らは殺人犯を見つけなければならない。



『金環日蝕』 阿部暁子著

知人の老女がひったくりに遭う瞬間を目にした大学生の春風は、高校生の鍊とともに咄嗟に犯人を追ったが、間一髪で取り逃がす。かくして大学で犯人の正体を突き止め、すべては終わるはずだったが？

『無人島のふたり』 山本文緒著

これを書くことをお別れの挨拶とさせて下さい。58歳で余命宣告を受け、それでも書くことを手放さなかった作家が、最期まで綴っていた日記。

『老害の人』 内館牧子著

自分のこと、親のこと、いずれは誰もが直面する老後。「最近の若い人は」というぼやきが今や「これだから老害は」となってしまった時代。

『サブスクの子と呼ばれて』 山田悠介著

人材サブスクサービスが普及した日本。児童養護施設で育った怜と灰花は、違法な未成年のサービスの果てに、狂気の事件に巻き込まれていくのだが？

『老人ホテル』 原田ひ香著

大家族で育った天使は、16歳で家を出て、大宮のキャバクラに勤める。そこでビルのオーナー綾小路光子と知り合った。数年後、訳あり老人が長逗留する古びたビジネスホテルにひっそりと暮らす光子と再会する。天使は、投資家だという光子の指南で、生きるノウハウを学ぶことになるが？

『月の立つ林で』 青山美智子著

月に関する語りに心を寄せながら、彼ら自身も彼らの思いも満ち欠けを繰り返し、新しくてかけがえのない毎日を紡いでいく。

『嘘つきなふたり』 武田綾乃著

誰か教えてほしい。恋愛や親友の定義を、人生の模範解答を？

『教誨』 柚木裕子著

響子は十年前、我が子も含む女兒二人を殺めたとされた。香純は、響子の遺骨を三原家の墓におさめてもらうため、菩提寺がある青森県相野町を単身訪れる。香純は、響子が最期に遺した言葉の真意を探るため、事件を知る関係者と面会を重ねてゆく。

『光のところにいてね』 一穂ミチ著

たった一人の運命に出会った。どうして彼女しかダメなんだろう。どうして彼女とじゃないと、私は幸せじゃないんだろう。運命に導かれ、運命に引き裂かれる。ひとつの愛に惑う二人の物語。

『ビューティフルからビューティフルへ』 日比野コレコ著

18歳の新星が放つ、一段飛ばしの言語感覚！ 絶望をドレスコードに生きる高3の静とナナ。生と死の両極に振り切れ乱反射する、高校生たちのモノログ。

『カプチーノ・コースト』 片瀬チヲル著

しんどいときほど、周りに頼れない。早柚（さゆ）は、ふとしたことから、地元の海岸のゴミ拾いを始めた。自分を見つめ直す、ひと月の物語。

『罪の境界』 薬丸岳著

無差別通り魔事件の加害者と被害者。決して交わるはずのなかった人生が交錯した時、慟哭の真実が明らかになる感動長編ミステリー。

「約束は守った。伝えてほしい。」この言葉は誰に向けたものだったのか、約束とは何なのか。

『日々憶測』 ヨシタケシンスケ著

文で綴られた 臆測の記録 90話と小さいお話たちを一冊にまとめました。臆測派の方々も、そうじゃない方々も、ぜひ。

